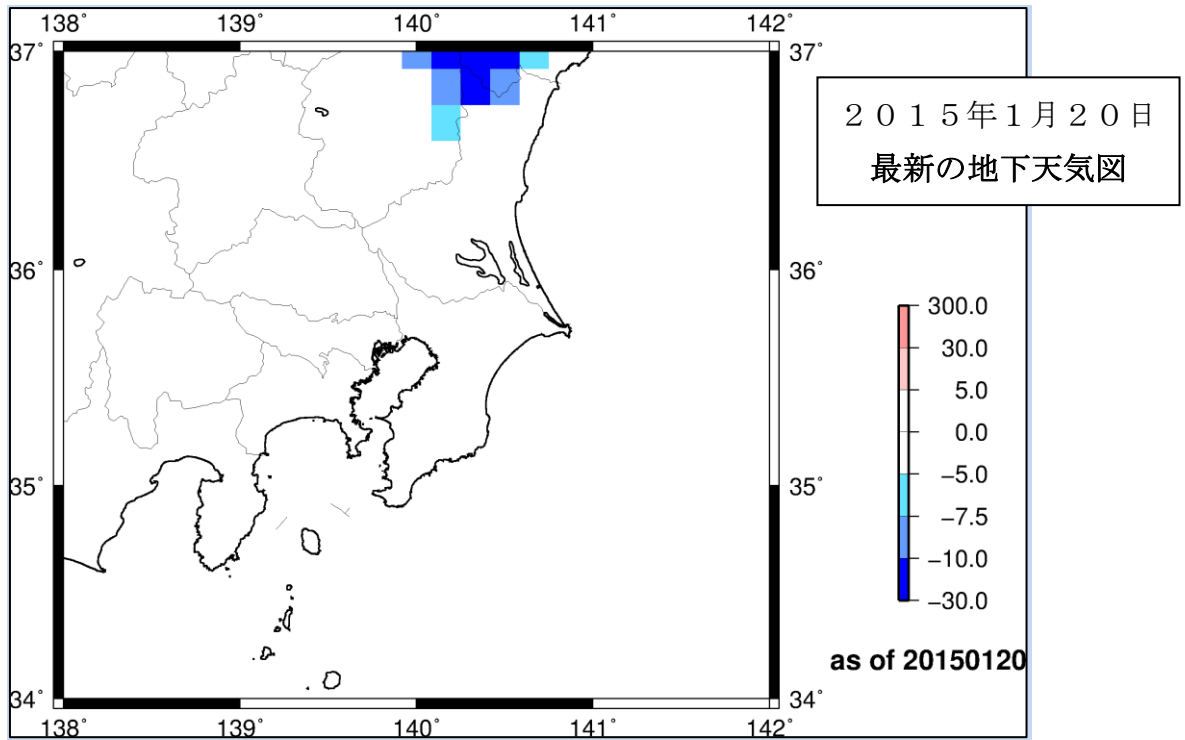


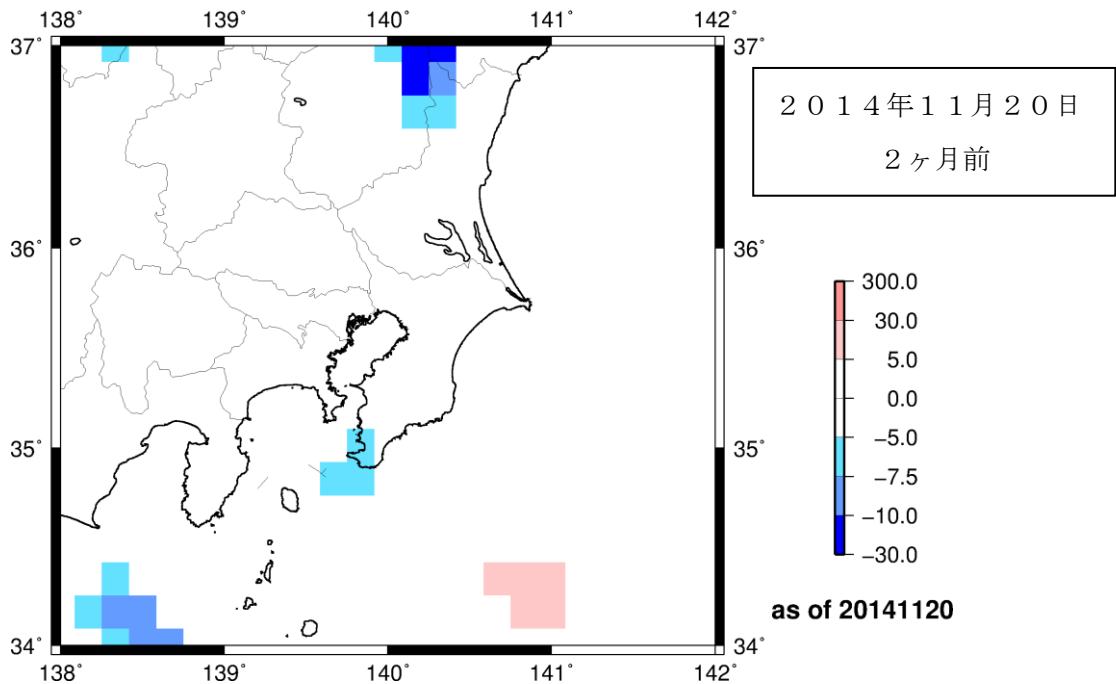
首都圏陸域の地震活動について

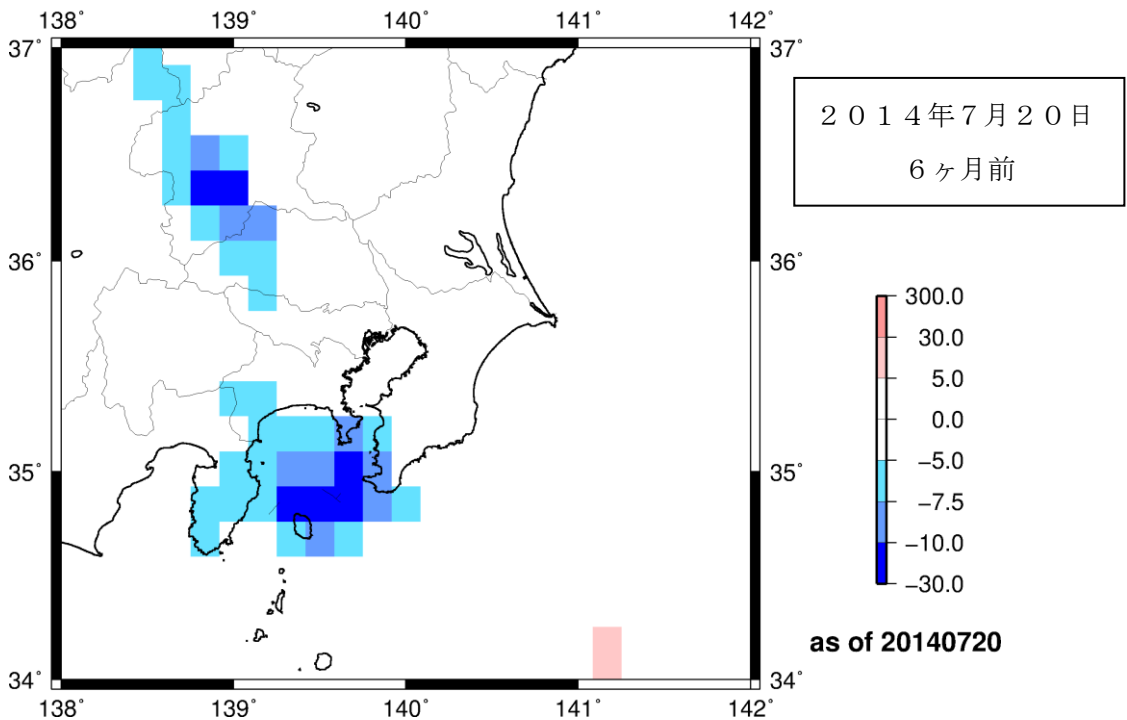
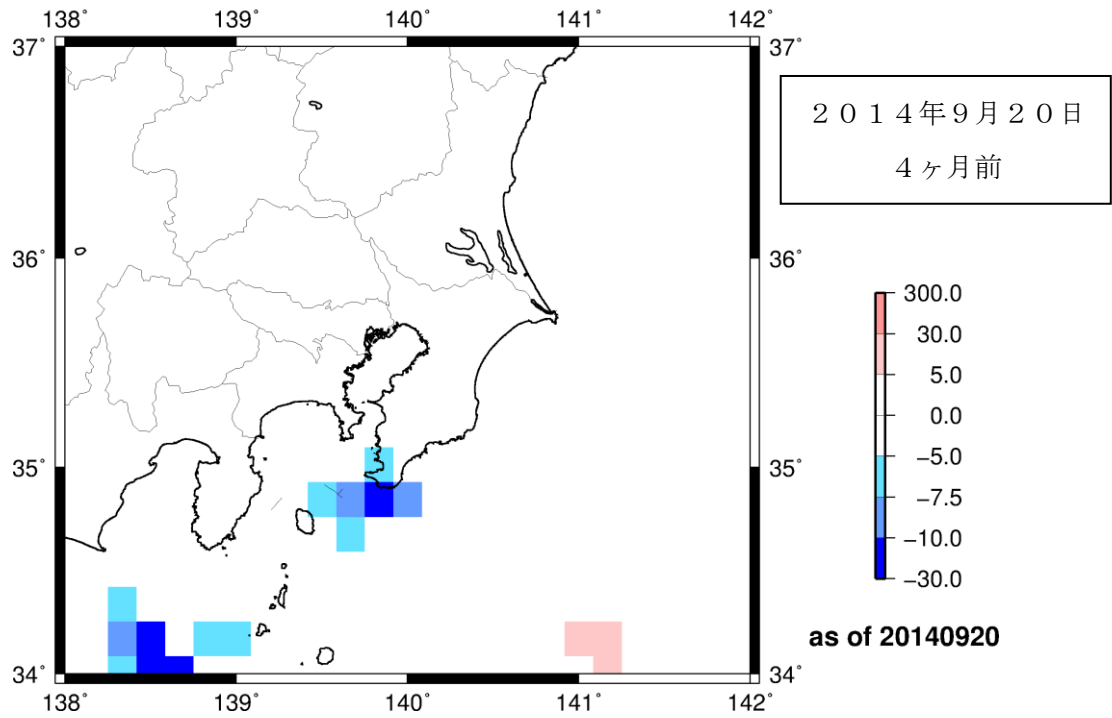
これまでも関東地方はフィリピン海プレートと太平洋プレートの2つがその直下に存在するため、非常に複雑な構造をしている事。さらに311後は、地震活動のパターンが非常に大きく変化してしまった事から科学としても最もチャレンジングな場所であり、かつ経済的にも最重要な地域です。

今回は久しぶりに2014年7月14日のニュースレター以降の首都圏陸域に特化した地下天気図をお示したいと思います。下の図は**2015年1月20日時点**の地下天気図です。今回の解析では2011年7月以降の多少311の余震活動が収まってからのデータのみを用いています。



今回の情報では2ヶ月ごとのこれまでの推移をお見せしたいと思います。





今回の情報では2ヶ月ごとの変化をお見せしましたが、解析の結果、結論として地震活動が静穏化している領域（異常と考えられる領域：青色の領域）の面積はいずれも小さく、首都圏直下では現時点で特に顕著な異常は出現していないと考えています。

次回は東北地方太平洋沖（アウターライズを含む）の解析を久しぶりに行ってみたいと思います。